

令和2年産水稻移植時期の技術対策

令和2(2020)年1月30日

経営技術課

昨年10月の台風19号により、ほ場が冠水し稲刈りができなかつたり、稲わらが流入したほ場が広範囲で発生しました。

また、畦畔や水路が被災した地域では、例年の田植時期までに復旧が間に合わない場合も想定されます。

さらに、今冬の積雪量が少なく、春作業時期の水不足が懸念されることから、計画的な育苗やほ場の準備が必要となります。

I 稲わらが流入した水田の対策

1 稲わらの除去・すき込み

春の稲わらのすき込みは、田植え後の気温上昇によりガスが発生し、初期生育を抑制することがあるので、できるだけ稲わらをほ場外に搬出する。

やむを得ずすき込む場合は、通常のスき込み量(500kg程度/10a)より少ない量にして、田植えの1か月以上前にすき込む。

すき込む際には、石灰窒素を20kg/10aを全面散布し、腐熟を促進させる。また、耕耘をやや浅め(10cm程度)に行い、酸素を供給し微生物による分解促進に努める。

2 水管理の注意点

田植え後のガスの発生により、初期生育が不良になった場合は、入水を中断し田面を干して生育回復に努める。

II 台風19号により被災した地域における田植遅延対策

1 地域別移植晩限【収量が移植最盛期の80%以上確保可能な時期】

県北地域 6月10日頃

県中地域 6月17日頃

県南地域 6月25日頃

★中苗育苗にすることで上記晩限期より1週間程度延長が可能。

移植時期に合わせた育苗作業スケジュール(イメージ)

移植時期	地域	想定品種	4月			5月			6月			7月
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
5月下旬	県北・中	コシヒカリ		浸種	播種	約19日	田植					
6月上旬	県北・中	コシヒカリ		浸種	播種	約18日	田植					
6月中旬	県北	コシヒカリ	【中苗】	浸種	播種	約30日	田植					
	県中	コシヒカリ		浸種	播種	約18日	田植					
6月下旬	県中	コシヒカリ	【中苗】	浸種	播種	約30日	田植					
	県南	あさひの夢				浸種	播種	約18日	田植			
		あさひの夢	【中苗】			浸種	播種	約30日	田植			

2 移植時期に応じた育苗の注意点

播種量は、稚苗育苗 150g/箱（乾籾）、中苗育苗 100g/箱（乾籾）を目安とする。

厚播き（200g/箱以上）による育苗は、育苗期間の高温や田植え時期が遅延した場合、病気の発生や苗の老化を助長するので避ける。

中苗育苗で、肥料切れになった場合、箱当たり窒素成分 0.5～1.0g を追肥（水 10 ㍓に 50～100g の硫酸を溶かし、20 箱にジョウロで施肥）し、その後、水をかける。

ハウスで育苗する場合は、高温になりやすいので、ムレ苗や病気の発生に注意する。

3 施肥の注意点

5月下旬以降の田植えでは、稈長が伸びやすくなり、コシヒカリでは倒伏が懸念されるため、窒素成分で1～2割程度減肥する。

4 栽植密度の確保

田植えが遅くなる場合、穂数が確保しにくいいため、栽植密度を 60 株/坪以上にする。

5 代替作物の検討

復旧時期が上記の移植晩限に間に合わない場合は、大豆、そば等の代替作物への転換を検討する。

Ⅲ 春作業時の水不足対策

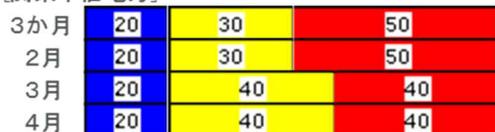
1 今後の気象予報

令和2年1月24日、宇都宮地方気象台発表の3か月予報によると、2月から4月にかけて、気温は高い見込みで降水量は平年並となっている。

山間部の積雪量は平年より少なく、春作業時期の水不足が懸念される。

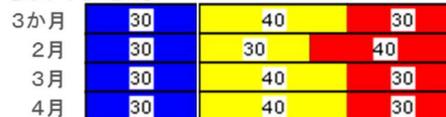
【気温】

【関東甲信地方】



【降水量】

【関東甲信地方】



凡例 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

積雪量(令和2年1月29日現在)

市町村	地点	積雪の深さ(cm)	平年比(%)	平年値(cm)
那須町	那須高原	2	14	14
日光市	土呂部	9	19	47
日光市	奥日光	7	47	15

注:気象庁HPより

2 育苗開始の注意点

積雪量等の影響により用水が確保しにくい水系では、例年どおりの時期に田植えができない可能性がある。土地改良区等からの情報収集に努め、育苗やほ場の準備を行う。

水不足が予想される場合、浸種日を遅らせる。

浸種した場合、水温を 10℃以下に下げること種子予措期間を長期化できる。

浸種して2～3日（芽が出ていない）の場合は、一度網から出して乾燥させ、その後日陰で温度が低いところで保管することで、再度種子籾を使用できる。但し、半生乾きの部分があると、発芽にバラツキが出てしまうので注意する。

3 ほ場の準備と代かきの注意点

早めに耕起を行い、稲わらや稲株を腐熟させ、代かきがスムーズにできるようにする。

畦畔のモグラ穴などによる漏水がないように点検する。

水持ちが良くなるよう代かき作業は丁寧に行う。

かけ流しにせず、用水の節水に心がける。